

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市岩田東3丁目277-1		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年9月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋造りの2ユニットで渡り廊下でつながっており、自由に行き来できるゆったりとした雰囲気のホームです。</li> <li>・母体の芥見診療所は多くの診療科目と入院病床を持っており医療との連携が整っています</li> <li>・デイ利用、外出利用の希望者は芥見診療所に併設のデイサービスを週1回～2回利用し、入居前からの馴染みの関係の維持や、外出支援、大浴場での入浴など、楽しんで頂けるように心掛けています。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加したり、ホームでの夏祭りには、住民の方々に参加をして頂いたり、交流ができるように支援しています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は診療所を母体とし、患者や家族からの要望で、デイサービス、グループホーム等の事業へと発展し、互いに協力関係にある。ホームの利用者は、週1、2回デイサービスに向いて、大きな風呂を利用している。外出支援の一つとしても活用し、馴染みの人々との交流が継続できるよう支援している。職員は、利用者とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築き、その日の心身の変化に合わせた対応を心がけている。事業所は、積極的に地域の行事に参加し、地域と交流が図れるよう努めている。母体診療所と連携し、24時間の安心な医療体制も整えている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、来所された方々に優しい気持ちと笑顔で接するようにしています。地域との交流ができる機会を増やしながらか利用者様のニーズに添ったサービスができるように心掛けています。	理念は、「利用者本位」「笑顔」「優しい心」「地域との交流」を基本としている。利用者本位での生活支援、優しさを一人ひとりにをモットーに、外食を兼ねた行楽や買い物で地域へ出る機会を多くし、地域住民を事業所に招く等、地域と関わりながら、利用者のよりよい暮らしに向けて実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と挨拶やお話をする中で馴染みのある関係づくりに努めており、夏祭りや花火大会などに声をかけ、地域の方との交流をしています。	自治会に加入し、地域住民と挨拶を交わしながら、地域の情報を得たり、事業所の行事などを伝え、交流を図っている。事業所の夏祭りを近隣住民の協力で開催し、住民と利用者が楽しんでいる。毎月の誕生会に音楽療法士の訪問があり、夏休みは多くの子供達が訪れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予約のお問い合わせ時や、ホーム見学時に日常生活の対応を相談される時は今までの経験を活かし、様々なアドバイスを伝えたり、介護者の疲労が軽減できるような支援をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で参加者の方々の提案等を、行事やサービス向上に取り入れられるよう努めています。発言が少ない時もある為、日頃の面会時にも家族さまから要望等を伺っています。	会議で、利用者の状況、行事、職員の研修等、2ヶ月間の取り組みを報告している。行政から「ひやりハット」の報告もするよう話があり、実施している。参加者の意見は、事業所と地域との信頼関係作りの機会とし、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスや法令等、常時連絡をし助言を頂きながら、取り組んでいます。運営推進会議に出席時にはご助言を頂き質の向上に努力しています。	地域包括支援センターの職員が、毎回運営推進会議に出席している。利用者の生活課題や災害対策等は、市に直接出向いて相談している。また、市の依頼を受け、事業所にて「認知症サポーター養成講座」を開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で拘束のないケアを確認しています。玄関の防犯の為、夜間のみ施錠していますが、日中は施錠はしない為自由に入出力出来ます。解除中は安全な対応で見守りしています。	職員は、身体的、心理的な拘束をしないケアを実践し、利用者の思いを把握し、見守っている。帰宅願望の強い利用者には、行動の把握と本人の気持ちに寄り添う姿勢でケアをしている。利用者の転倒リスク管理では、家族と相談し、車椅子に鈴をつけ、不意の行動での事故予防に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で人権の尊重を全職員が把握できるように会議等で伝達しています。また、身体的のみではなく精神的虐待につながるような言葉等も注意しながらケアに取り組んでいます。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で外部研修で学ぶ機会を作り伝達する事で職員の理解や知識を身につけています。身元保証制度を利用されている方に関しては関係者と話し合いをしながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者様、家族様に詳しく説明をし疑問等に関し十分な説明、対応をすることで御理解を頂き同意を得ています。また、入居後も疑問などあった場合にはその都度、説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見等、サービス向上につながるよう努力しています。電話などで連絡を取り話しやすい環境、雰囲気作り、家族様の面会時に要望等を聞き運営に反映させています。	面会時や電話などで、利用者の日常生活の様子や変化を伝え、家族から意見を聞いている。毎月のホーム便りに、行事の報告や写真、次回の予定等、情報を提供している。家族からの意見はミーティングで検討し、運営に反映させている。	運営推進会議の場で、管理者の交代予定の説明をしているが、利用者・家族には、ホームの運営方針の周知を図り、職員の採用や異動等について伝える方法を工夫し、利用者の安心につなげた取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間での意見交換がしやすいような業務の流れを配慮し、話しやすい環境作りを心掛けています。意見や提案がある場合は随時報告があり会議等で検討し個々の意見や思いを反映させています。	管理者は、職員からの意見や提案が出やすい環境づくりに努めている。職員の提案で、理事を講師に「介護について」の学習会を開催し、協調、臨機応変などの重要性や、考えながら行動することの大切さを確認する内部研修が行われた。	管理者の交代が間近にあることを踏まえ、全職員が理念や運営方針などを再確認する機会とし、介護の質のさらなる向上を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を配慮し働きやすい労働環境(残業時間の軽減、身体負担の軽減)を確保できるように工夫しています。また、得意な事、苦手な事を把握しその職員に合った係を決める等、意欲向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の立場や必要性に適した内部研修に積極的に参加し、会議や書面等で他職員への伝達、知識の共有を行い質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域の会議等に参加し、情報収集や意見交換を行っています。また、他事業所へ利用者様の紹介や訪問、運営に関しての相談もしながらサービスへつながるような取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学や事前面接時に柔らかい雰囲気を作り相談や要望をお聞きしています。信頼を得られるよう、要望等ははっきり受け止めて、今までの生活環境を大切にしながら安心した生活が送れるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に家族様からの要望等をお聞きし信頼を得るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約時等に相談を受ける中で、個々に適したサービス提供できるよう内容を話し合い、支援を検討しています。法人内のデイサービスを利用して頂いた方等、入居後も利用をして頂き、今までの関係の継続を支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、その他、個々の利用者様の得意分野とする事を皆で学び、共存し合う事で一体化を図り、常に感謝の気持ちや敬意を忘れず、支えあいながら生活できる関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの生活に慣れない方は家族様に面会や電話の協力をして頂き、安心した生活が送れるように支援しています。また、行事に参加して頂き、家族様との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近隣の方や友人など面会にみえています。地域行事(敬老会)などの参加、同法人のデイサービスの利用、外出、外泊の機会が持てるよう家族の方に協力して頂き、馴染みの方との交流が図れるように支援しています。	毎週、面会に訪れる家族も多く、笑顔で迎え、次回訪問に繋がるよう支援している。同法人のデイサービスを利用していた人が多いため、デイサービスで顔なじみの人との交流が図れている。また、地域の敬老会に職員と共に参加し、馴染みの人と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士ができない事を助け合いながら生活しています。支え合うことで信頼関係を築き、毎日笑顔で過ごして頂けるような生活支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様の相談等に応じ、その都度、対応しながら、お付き合いを大切にしています。馴染みや信頼関係が途切れないように心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を支援していく中で、思いや意向を汲み取り、会話等から得た情報を職員間で共有する事で本人らしい暮らしを確保しています。また、その都度本人が意思決定しやすい環境作りを心掛けています。	職員は、利用者との関わりの中で、会話、表情や行動等から思いや意向を把握し、知り得た情報は、職員間で共有している。職員は常にゆとりを持って接し、本人の意思が表出しやすい環境づくりに心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの生活歴や性格などの情報を取り入れ、全職員が把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残しサービスの経過等、全職員が利用者様に対して同じ対応ができるように努めています。また、利用者様の心身状態を把握し、個々に合った対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の思いや希望を含め、会議等で話し合いをして、より良いサービスが提供できるように介護計画を作成しています。身体状況や認知症状の変化がある場合は、その都度話し合いをしながら見直しをしています。	介護計画は、本人・家族、職員、医療関係者と密に連絡を取り合い作成している。担当制であるが、2ユニットの全職員が、全利用者を把握する方針とし、情報の共有を行い、利用者本位の暮らしとなるよう配慮している。随時、モニタリングを行ない、変化に対応した計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々のケアプラン経過記録、生活記録などを記入し職員間で情報を共有する事で状態把握に努めています。また、記録を参考にすると共に、会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望に応じて、買物、受診、法人内のデイサービス利用などの支援をしています。また、気分転換を図る為、外出や散歩等に出掛け柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、校下内で行われるお神輿の見学、近くのスーパーへ買物、ホームの近くを散歩し近所の方とのふれあいを心掛けています。ホーム行事(夏祭り)の開催を通知し参加して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望に応じてかかりつけ医、専門医などの受診、必要に応じて往診もあり、安心して頂けるような支援に努めています。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望により選択している。協力医による、2週間に1度の往診がある。母体法人診療所と24時間の医療連携体制を確保し、緊急時の対応も可能である。利用者は、医師の診断のもとマッサージ師の往診、歯科医の往診なども受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に主治医、看護師と連絡を取り合い、適切な医療や看護が受けられるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には主治医、看護師との情報交換を密にし、本人様、家族様が安心していただけるような対応を心掛けています。また、早期退院ができるように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様に重度化や終末期について主治医との話し合う時間を作り、説明をして同意を得ています。	重度化・終末期での事業所方針は、入居契約時に説明している。終末期を迎えたときは、家族と医師が段階に応じ話し合い、家族・医師・職員で情報を共有しながら支援している。職員への精神面を含んだ研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置してあり、使用方法の勉強会を行っています。急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています。また、その後も全職員に対応方法を周知徹底しケアをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、消防署の方に来て頂いて指導を受けており、マニュアル作成、物品などの準備をして災害に備えています。また、地域の防災訓練にも参加しています。ハザードマップを玄関に設置しいつでも見られるようにしています。	消防署立会いの下、避難訓練を行っている。火災予防の一つとして、台所は「IH」に変更した。誘導灯は分かりやすく、避難口としての開口部は広く、何箇所もある。車椅子利用の利用者が増えてきたので、現状を考慮した救出についても検討している。戸外隣接地は広い空間がある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格に添った声かけや対応を心掛け尊重する心を大切にしています。利用者様本意の支援に取り組みプライバシーの確保に努めています。	職員は、外部講師によるコミュニケーションに関する研修を受け、尊厳やプライバシーについて学び、日々のケアに活かすよう努めている。トイレの扉は必ず閉め、誘導時は他者に気づかれないよう、羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の変化に気付けるように日頃からコミュニケーションを大切に状態の把握に努めています。信頼関係を築いていく事で希望や思いを伝えやすい環境づくりを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛け、その方にあった生活が送れるように支援しています。毎日が楽しく笑顔で過ごして頂けるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びや外出時の洋服選び、お化粧品等、自己決定ができるように働きかけています。買い物では、個々に好みの洋服などを選び、楽しみを持って頂きながらその人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けをして頂いてます。また、ホームの畑で育てた野菜と一緒に収穫し、献立に取り入れ味付けや調理方法など教えて頂きながら食事が楽しみになるよう支援しています。	毎食、味付け、好みを確認し、職員が献立を立て調理している。摂取量なども把握し、季節感のある彩りに配慮した食事を提供している。ほぼ毎月1回の季節の花見行事や、3か月に1回のショッピングセンターへの買い物に出かけた際に、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録に残し、食事、水分摂取が少ない場合は医療機関に連絡して指示を受け対応しています。個々に合わせた量、調理方法等を工夫しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし、できないところは援助しています。また、義歯は毎晩消毒し、歯みがきが困難な方は舌用のスポンジを使用して口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けを行っています。できる限りトイレでの排泄を促し、自立に向けた排泄の支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレでの排泄を促し、排泄の自立を支援している。安全な立位が保てるように、手すりを使った下肢筋力の維持運動を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で運動や散歩など働きかけています。食事のメニューには食物繊維、乳製品等を使用したり水分をなるべく摂って頂けるように声かけをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調、衛生状態等に合わせいつでもゆっくり入浴して頂けるように支援しています。週に1~2度、法人内のデイサービスにて大きい浴室でゆったりと入浴をさせて頂いています。	2ユニットのどちらの利用者も、ホームでの入浴はもとより、同法人デイサービスで、職員の介助による週1,2回の入浴を楽しんでいる。重度の利用者も、デイサービスの大きな浴室で、ホーム側で支援を行ない、安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活習慣を把握し、眠れない方は、安心して頂けるような、声かけをして対応しています。また、様子観察を十分に行い状況に応じ休息できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています。誤薬飲み忘れを防ぐ為、常時職員2人にて確認を行っています。状態の変化があった場合は、主治医に報告し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけその人らしい生活が送れるよう支援しています。また、季節の行事等を行い季節感を味わって頂けるような計画を実行しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、法人内のデイサービスなどに出かけられるよう支援しています。希望に添って外出できない時もあり、そのような場合には日にちを決めて外出できるようにしています。また、家族様の協力も得て外出を楽しんでいます。	車椅子利用や手引きの利用者も、事業所の中庭や畑を眺めながら、日常的に散歩している。また、家族の理解や協力を得て、大型スーパーへの買い物、花見、イチゴ狩り等の行楽に出かけ、外食を定期的に楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、ホームで管理しています。現金を所持せず不安を感じる方に対しては家族様と相談し本人様管理をして頂いています。買物では一緒に支払いを行い、安心される現金管理に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があった場合、家族様に電話をかける援助を行っています。電話の際は、本人様のペースでゆっくりと話をし、適切な空間作りに配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室にはソファにてくつろげるスペース、椅子には個々のクッション等を置き、過ごしやすい空間づくりに配慮しています。テーブル等には季節感を味わって頂けるように季節の花を飾っています。また、各棟を自由に行き来できる様な雰囲気作りも行っています。	共有の空間には、季節ごとの飾りを準備し、利用者手作りのカレンダーや、利用者が記入した献立表が掲げられている。ソファは利用者の人間関係にも配慮し、随時位置の変更をし、皆が楽しく、くつろげる空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみなどされています。また、雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用して見える方や、家族様や昔の写真を飾ってみえる方等、本人らしい快適な空間の中で過ごして頂けるように心掛けています。身体状況に応じて、その都度、本人様、家族様と相談しながら配置替えをしています。	各居室の入り口には、家族が準備した赴きのある暖簾が掛けられ、部屋の目印になっている。テレビ、冷蔵庫、携帯電話を持ち込んでいる利用者もあり、相談しながら配置をしている。ベッドシーツ類は週1回業者によりクリーニングされ、枕カバーは自分でつける利用もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いよう家具の配置を工夫し身体状況に応じて安全に移動ができるように配慮しています。また、居室には暖簾をかけ他の部屋との区別がすぐできるようにしてあり、安心して生活が送れるように工夫をしています。		